



危険な家屋の放置を許すな！

Q 倒壊の恐れなどによって、近隣の家屋に危険を及ぼしているような家屋などと、その所有者に対する「空家等対策の推進に関する特別措置法」や「建築基準法」に基づく対応について、近隣住民の安全を最優先にした対応がなされるべきと考えるがどうか。

A 国のガイドラインに沿って対応を進めていくが、同時に、近隣住民の安全確保についても、必要な措置を講じなければならない。空家法等が施行され11年超が経過していることから、他自治体などにおける取り組み事例を参考に、現場の状況に応じてどのような対策が可能か、専門的知見を有する「戸田市空家等対策審査会」などの意見も踏まえて対処していく。

市長の働き方を検証すべき

Q 職員の中途退職の増加が問題となる中、長く働いていただくために、市長による業務指示の在り方が職員を疲弊させていないか、やりがいを喪失させていないかを検証すべきではないか。

A 本市の事業は組織プロセスを経ている。市長による業務指示が組織の疲弊につながっていることはない。個々の事業によっては一部の職員に負担が偏った可能性は否定できない。令和8年度から開始する新たな行財政改革の中で、職員一人ひとりに焦点を当て、やりがいをもちながら働ける環境づくりに取り組む。

Q 私たちは、市長が短期間で公約を達成しようと努力し過ぎた結果、職員に過度の負担がかかったという仮説を持っている。しかし、それを検証できるのは市長自身しかいない。不断の検証を続けてほしい。



市役所がまず、一番働きたい職場になろう！

障害児・者への防災支援を

Q 防災訓練への参加とマイタイムライン作成を行政が支援してはどうか。また避難行動要支援者避難支援制度の申請について、障害福祉課と連携した周知を。

A 日頃からの準備は重要と認識している。マイタイムライン作成支援は出前講座等を通じて行っている。避難行動に支援を必要とする方や周囲の方々に対する有効な情報提供は、関係部局と連携し研究する。

戸田市公共施設再編方針の内容は

Q 戸田市公共施設再編方針の内容中、3つの福祉センターにおける計画で、市民の声を聞く機会はあるか。

A 市民ワークショップを3回開催。最も老朽化が進む西部福祉センターは、建て替えに向けてのアンケート調査や11月にパブリック・コメントを行い、現在、集計している。東部福祉センターは体育室の屋根および天井断熱材の更新、空調設備の新設工事を予定している。今後も必要に応じて市民の声を聞く機会を設ける。

Q 西部福祉センターの「憩いの室」入浴施設存続を。

A 現時点では決まっていない。誰もが気軽に利用でき、心地よく過ごし、暮らしが豊かになるよう検討する。

公共施設への生理用品設置

Q 新型コロナで、「生理の貧困」が社会問題となった。現在、「経済的な貧困」だけでなく「知識の貧困」も課題であることから社会全体で捉える必要がある。市の認識は。公共施設への生理用品設置についての見解は。

A 正しい知識の普及に加え、偏見やタブー視などが解消されるよう、男女共同参画の視点で引き続き啓発していく。公共施設への生理用品設置は交付金の活用を含め、検討する。



学校はOK! 公共施設にも生理用品を

外国人学校児童生徒保護者助成金制度

Q 外国人も無償の日本人学校に行けるのにも関わらず、有償の外国人学校に行かせていることに対して、日本人の税金で補助する必要はないため廃止すべき。

A 制度の在り方を適切に検討していきたい。

学校給食の量が少ないのではないか

Q インターネットで「戸田市、給食」で検索すると出てくる給食を見ていると貧相に感じるため、給食の量を増やすべきである。基準はどのようなものか。

A 国の摂取基準に準拠し、適正量を提供している。

学校給食に関する指導について

Q 「宿題をやっていない子には給食のおかわりをさせない」という不適切な指導について改善すべき。

A 該当校では、指導の在り方について指導し、おかわりのルールを改めた。また、全校長へ再発防止を含め指示している。

動物愛護関連予算の増額を

Q 今まで何度も議会で要望しているが、担当部局が予算増額を当局に求めているのはいかなるものか。

A 執行状況等を踏まえ予算措置の手続きを進めている。

道路整備について

Q ①戸田駅西口に横断歩道や信号機の設置を②横断歩道の白線が薄くなっているため改善を。

A ①蕨警察署に確認したが基準を満たしておらず設置は難しいとのこと②改めて蕨警察署へ伝えていく。



戸田駅西口は歩行者・車両共に交通量が多い

外国人のマナーの悪さについて

Q ごみ捨てマナーの悪さや声掛け行為に困っているという声がある。市として対応を求め。

A 引き続きルールの周知と警察との連携を進める。

地元宿泊キャンプは魅力がたくさん！

市内での宿泊キャンプ実現へ

Q 彩湖・道満グリーンパークでの宿泊キャンプを可能とするための検討状況について伺う。

A 彩湖・道満グリーンパークの夜間利用に関する要望書を提出し、荒川上流河川事務所は、試行的に夜間利用を行う方向で検討いただいている。同時に、来年度当初の開設に向けた各種協議や整備を進めている。

Q 予定では、キャンプサイトの区画数は10サイトと少なく、収益性に不安が残るところであるが、今後の展望は。

A スモールスタートで発進し、実績を重ねながら、指定管理者である水と緑の公社として持続的な自走ができるように、年度ごとに事業拡大を図っていく。

Q 市外から多くの方々を訪れることが想定される。市民には優しい価格設定、市外利用者は、ふるさと納税の制度を利用するなど、市としての収益性向上、「稼げるまち戸田」を視野に入れた取り組みは重要。検討しているか。

A 水と緑の公社の営業販売収益事業においては、「手ぶらでバーベキュー」などが、ふるさと納税の返礼品として展開されており、市は公社事業に協力していく。

Q 戸田市キャンプ協議会などの市民の方々のご意見も取り入れて利便性の高い、市民ニーズに合った、魅力あるキャンプ場を目指していただきたい。



戸田市キャンプ協議会△主催の市内宿泊キャンプ